独立行政法人水資源機構中部支社

水通信

2024.2.28　第196号

「水通信」は、水資源機構（主に中部管内）における取組に関する情報を、中部管内の関係者（県、市町村、土地改良区その他関係機関）の皆様方に、直接配信させていただいております。

令和６年１月１日に発生した令和６年能登半島地震から約２ヶ月が過ぎようとしています。この地震で亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに被災された皆様にお見舞い申し上げます。

まだ、ライフライン等が完全に復旧されていない状態のなか、避難生活を強いられている方々におかれましては、１日も早く通常の生活に戻れることをお祈り申し上げます。

目　　次

※目次の事業所名等クリックすると、その事業所等の記事に移動します。各記事の事業所名をクリックすると目次ページに戻ります。

☆【巻頭言】　　１頁
　　○　能登地震被災への支援と教訓
　　中部支社事業部次長　國枝　達郎

☆【中部管内水源情報】　　３頁

☆インタビュー『水を支えるスペシャリストに聞いてみた』　　４頁

☆《新着情報》
中部支社　　７頁
　○　交通安全講習を実施しました
豊川用水　　７頁
　○　オイルフェンス設置訓練を実施しました
　○　宮崎雅夫参議院議員が大野頭首工を視察されました
木曽川水系連絡導水路　　８頁
　○　危機管理対応訓練を実施しました
愛知用水　　９頁
　○「佐布里池梅まつり」が開催中です
木曽川用水　　９頁
　○　令和５年度　下半期交通安全講習会を開催しました
　○　現場安全パトロールを実施しました
岩屋ダム　　１１頁
　○　利水放流設備点検放流を実施しました
阿木川ダム　　１１頁
　○　ダム上流域の小学校への出前講座を開催しました
徳山ダム　　１３頁
　○　堤体上の道路の一般通行規制開始しました
　○　地元小学生たちが徳山ダム資料棟でイグルー作りを行いました
　○　谷汲山華厳寺　仁王門前に赤鬼像が登場
長良川河口堰　　１６頁
　○　揖斐川・長良川中堤合同クリーン大作戦に参加しました
味噌川ダム　　１７頁
　○　今年も開催！木曽谷狼煙（のろし）あげ
　○　味噌川ダムにおける冬の風物詩
三重用水　　１８頁
　○　刈草ロールの配布
　○　菰野調整池が一面の銀世界

☆【編集後記】　　１９頁
　　○　担当課　中部支社総務部総務課

巻頭言

○　能登地震被災への支援と教訓

中部支社事業部次長　國枝　達郎

令和６年１月１日１６時１０分、日本の多くの人が家族と新しい年を迎えた喜びの団らんのさなかに能登半島を中心とするマグニチュード７．６、最大震度７の地震がおきました。ふる里に帰省中に被災され亡くなった方もおられるといったニュースを目にすると、本当に心が痛むばかりで、被災者の皆様が一日も早く日常を取り戻されることをお祈りいたします。よりにもよって元旦の夕方の発災という防災対応にあたる側にとって初動体制の構築に不利や困難が伴うタイミングであったにも関わらず、被災地には発災直後から政府、自衛隊、医療関係者のほか、全国から多くの自治体が支援に入られており、我が国の防災対応の速さには、鮮やかとすら思いました。水資源機構でも、震源地から比較的に近くにある中部管内を中心にダムや水路の施設でも地震が観測され、発災直後から職員が現場に参集し、直ちに設備点検を行い異常がないことを確認いたしました。

能登半島の被災地では、道路、水道といった生活に欠かせないインフラが大きな被害を受けました。高齢化が進んだ過疎地でかつ山岳地形の半島という地理的な不利もあって、インフラの復旧においても段階的に進めざるをえず、重機を大量投入して一気呵成にといった進め方はできない状況もあったように思います。ほかにも地盤が４ｍも隆起し港湾が使えなくなってしまうといったこれまであまり経験のない被害が見られました。

水資源機構でも日本水道協会からの支援要請を受け、能登半島先端に位置する珠洲市に職員と可搬式浄水装置２セットを派遣し、１月９日から生活用水や飲料用水の提供を行っています。現地では、浄水場や配水設備も大きく被災し、早期の復旧が見込めない中、発災直後は給水車によって金沢市など１００ｋｍ以上も遠方から、しかも道路事情も非常に悪い中、片道７時間くらいかけて輸送するといった状況だったそうです。可搬式浄水装置を珠洲市内に設置したことにより運搬に要する時間は１０分程度に大きく短縮され、自衛隊による仮設のお風呂の提供や、病院や避難所での生活用水として利用されています。この原稿を執筆している２月１６日現在も装置は休まず稼働を続けており供給した水は１，５００，０００リットルに達しようとしています。テレビ等でも報道されていますので、目にされた方もいらっしゃるかもしれません。なお、機構の浄水装置から各所への水の運搬には、愛知県企業庁や名古屋市上下水道局等の中部圏をはじめ全国から支援に集まった給水車がこれまた休むことなく連日対応されています。私の記憶では、札幌市や気仙沼市の給水車もご活躍されていたと思います。このほかにも水資源機構では、農林水産省からの要請により能登半島にある“ため池”施設の被災状況調査や応急対応に中部管内も含めて全国から派遣された職員が交代で当たっています。

私も１月５日から浄水装置の設置のため、現地入りしましたが、“清浄な水”が無い生活の困難さをはじめ、インフラが整っていない状況での復旧の困難さを痛感いたしました。また、今後発生すると予想されている南海トラフ地震がまさに差し迫った危機であると強く感

じるとともに、被害の軽減や迅速な復旧に向けてもっともっと想像力をはたらかせて考え、備えていかなければならないとの思いを強くいたしました。南海トラフ地震では、東日本大震災の１０倍規模の被害を想定すべきといった話を聞いたことがあります。復旧が遅れると経済的損失の増大だけでなく、人材や資本の流出により経済活動そのものが変化を余儀なくされ、その後の復興にも大きな影響を与えます。「備えていたことしか、役に立たなかった。備えていただけでは、十分ではなかった」は、東日本大震災発生時に対応に当たられた東北地方整備局がまとめられた「東日本大震災の実体験に基づく　災害初動期指揮心得」の巻頭に記された言葉ですが、今一度、この教訓を自分は活かせているのか、再点検していきたいと思っています。

■給水支援活動の拠点である野々江総合公園内の亀ヶ谷池（かめんたいけ）

■左が原水、右が浄化後の水

■可搬式浄水装置の一部

■給水車への給水

中部管内水源情報

【中部管内水源情報】

中部管内の各ダムにおける２月２７日現在の降雨及び利水貯水率については、下表のとおりとなっています。

木曽川水系の４ダム（牧尾・岩屋・阿木川・味噌川ダム）の２月降雨量は平年を上回る状況（平年比１６７％～２２１％）となっており、４ダム合計の貯水率についても８３％（平年比１２５％）と、平年を上回る貯水状況となっています。

なお、牧尾ダム及び岩屋ダムでは、３月末に向けて主として発電による貯水池運用により貯水量が計画的に低下していきます。

豊川水系の宇連ダム及び大島ダムの２月降雨量は、平年を上回る状況（平年比１６６％～２９０％）となっており、豊川用水全体（宇連・大島ダム、各調整池）の貯水率についても７５％（平年比１１１％）と平年を上回る貯水状況となっています。

中部管内各ダムにおける２月の降雨及び利水貯水率（２月２７日現在）単位：(%)

	牧尾ダム	阿木川ダム	味噌川ダム	岩屋ダム	宇連ダム	大島ダム	中里ダム	徳山ダム
降雨の平年比	167	209	189	221	166	290	101	114
利水貯水率 （平年比）	59.8 (207.8)	93.4 (117.9)	98.5 (106.5)	100 (105.5)	59.1 (100.9)	99.1 (118.4)	79.5 (96.2)	100 (100)

木曽川水系各ダムにおける積雪状況　単位：(cm)

	牧尾ダム （御岳高原地点）	味噌川ダム （ワサビ沢地点）	岩屋ダム （岩屋ダム地点）	徳山ダム （塚地点）
（調査日） 積雪深	(2/20) 7	(2/20) 22	(2/20) 0	(2/20) 7
平均値	50	82	0	119

・中部支社管内の各ダム貯水状況等は中部支社ＨＰ内の「水源情報」でご覧いただけます。

中部支社ＨＰ　https://www.water.go.jp/chubu/chubu/index.html

「水源情報コーナー」

◆リアルタイム情報　https://www.water.go.jp/mizu/chubu/realtime/index.html
◆中部管内の水源状況（平日更新）https://www.water.go.jp/mizu/chubu/report/
◆ダム貯水状況グラフ、節水情報など
https://www.water.go.jp/chubu/chubu/sessuijyouhou05_1.html

インタビュー『水を支えるスペシャリストに聞いてみた』

中部支社メールマガジン水通信では、令和３年より新たなコミュニケーションツールとして、水資源開発施設の建設・管理に携わる「人」に焦点を当て、それぞれのスペシャリストにインタビューを行う『水を支えるスペシャリストに聞いてみた』を掲載しています。

今回は、木曽川水系連絡導水路建設所の業務を支える若手職員に、これまでの経験や業務内容などについてお話を伺いました。

〈Profile〉
齋藤　彰　　Ａｋｉｒａ　Ｓａｉｔｏ
木曽川水系連絡導水路建設所　総務用地課

令和３年４月　独立行政法人　水資源機構採用
池田総合管理所　配属
令和５年４月　木曽川水系連絡導水路建設所　配属
現在に至る

齋藤さんは令和３年に水資源機構に採用されましたが、そもそも水資源機構に入社を希望した理由は何ですか

―昨今、気候変動に伴う大雨や洪水のニュースを目にすることが多くなり、自分も何か役に立てることはないかと考え、全国各所の治水を担う機構で働きたいと思いました。実際に仕事をしてみて、治水だけにとどまらず、生活用水・工業用水・農業用水など水に関わる様々な取組みで地域の方々の生活の支えになっているという点に、とてもやりがいを感じています。

令和５年４月から木曽川水系連絡導水路建設所　総務用地課に配属となりました。現在どのような業務を担当されていますか

―事務業務全般を広く担当しています。例えば、総務・人事業務として職員等の社会保険や福利厚生に関わる手続き、経理契約業務として必要な備品の発注や支払の処理、用地業務として調査に必要な土地占有の更新手続きといったものがあります。前の事務所では事務の仕事の中でも担当がしっかりと決まっていたのですが、ここではより幅広く対応をしていく必要があります。

配属されてからこれまで約１０か月経ちましたが、仕事で印象に残っていること、または意識していることはありますか

―仕事においては段取りが９割という話を以前聞いたことがあります。決裁を取るにしても、事前に話を通しておいたり、スケジュールを把握していたりすることで、スムーズに進めることができますし、早い段階で上司の方に間違いを指摘してもらえるといったこともあるので、常に意識して動くようにしています。

段取りを意識しているというのはすばらしいですね。現在幅広く業務を担当されているとのことですが、今後専門として担当してみたい業務はありますか

―すでに担当している業務ではありますが、経理については仕事をしていく中で重要性を強く感じたことから、より専門知識を深めていきたいという気持ちがあります。最近ではインボイスの対応で苦労したこともあり、常に知識を増やし、アップデートしていくことを心がけていきたいです。経理担当者としての専門性を身につけた後、ゆくゆくは機構の決算処理等の大きな仕事にも関わっていきたい気持ちがあります。

■仕事中の齋藤さん

また、用地業務についても、地域との関わりを持てる仕事であるため、強い関心があります。機構の研修等を受けて少しずつ知識が身についてきたので、今後は実務としてより深く携わっていきたいです。

幅広い業務をこなしていると疲れることも多いかと思いますが、休日はどのように過ごされていますか？ストレス解消法もあれば併せて教えてください

―よく、温泉やサウナに行って、気分をリフレッシュしています。事務所から３０分ほど車で走ると、サウナ好きに有名な大垣サウナというところがあり、水の都である大垣の地下水を使用した水風呂が最高です。施設のレトロな外観も趣があって、こういったスポットを見つけることが全国転勤の楽しみにもなっています。

全国転勤で楽しみを見いだせたことはよかったですね。それでは最後に今後に向けて抱負をお願いします

―現在の事務所に配属をされてから、地域団体等主催の河川の清掃や植林といったボランティア活動にも積極的に参加しています。活動に参加することで、機構が地域にとってどのような存在なのかということを考える良いきっかけとなりました。今後も、積極的に参加して

いきたいと思いますし、その中でより地域にとって身近な存在として認識されるよう、貢献をしていければと考えています。

本日は、お忙しいところお答えいただきありがとうございました。地域との関わりを意識して仕事をしていること、また今後も経理や用地関係の業務にも携わっていきたいという前向きな気持ちを持ち続けているのは素晴らしいことと思います。今後も更に研鑽を重ねられて水を支えるスペシャリストに成長されることを期待しています。

〈あとがき〉

水資源機構中部支社では、水の安定供給を支える「人」に焦点を当てたインタビューコーナーを今後も特集として掲載していきます。インタビューに応えていただける方を募集しておりますので、ご協力の程よろしくお願い致します。

ブレイクタイム　四字熟語

【　謝石飲羽　】（しゃせきいんう）

・どんな困難なことでも、精神を集中し必死の思いでやれば、できないことはないという意味。

《新着情報》

中部支社

○　交通安全講習を実施しました

中部支社では、１月１７日（水）、支社に勤務する者全員を対象に今年度２回目の交通安全講習を実施しました。

愛知県警中警察署から講師をお招きし、愛知県における交通事故情勢、交通事故防止のポイント等をお話しいただきました。

歩行者の死亡・重傷事故が多発しており、これを防ぐため、ストップ、スロー、スマートを意識した運転を心がけるべきことを受講者一同確認しました。

■講習会の様子
丸中は愛知県警中警察署の講師

豊川用水総合事業部

○　オイルフェンス設置訓練を実施しました

令和５年１２月２２日(金)、水質事故発生時における迅速かつ確実な対応を目的として、宇連川上流域での油流出事故を想定し、大野頭首工取水口前面にオイルフェンスを設置し、油の拡散防止を図る訓練を実施しました。

実際に設置作業を体験することで職員の危機対応能力の向上を図りました。

■①オイルフェンス搬出

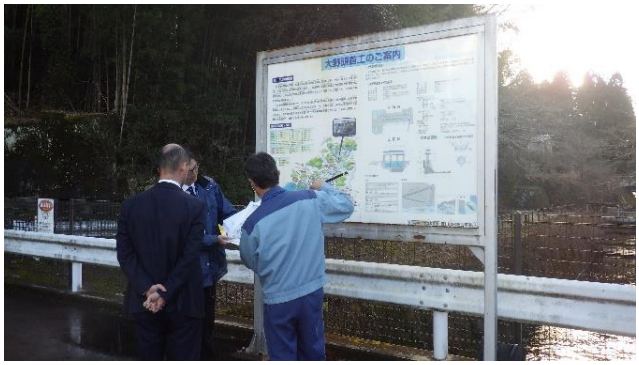
■②設置作業中の様子

■③設置完了

○　宮崎雅夫参議院議員が大野頭首工を視察されました

１月２１日（日）、宮崎雅夫参議院議員が豊川用水の取水施設である大野頭首工（愛知県新城市内）を視察されました。

豊川用水の概要やストック効果等をご説明し、渥美半島全域を含む愛知県東三河地方、静岡県湖西市の地域へ水を安定的に供給することにより、市民生活を支え、我が国屈指の農業基盤、地域産業の発展に大きく貢献していること、将来にわたり、豊川用水の重要性と責務は不変であることをご理解いただけたと考えています。



■現地で宮崎雅夫参議院議員に説明する様子

木曽川水系連絡導水路建設所

○　危機管理対応訓練を実施しました

１月１８日（木）に危機管理対応訓練を実施しました。本訓練は当日朝９時に震度６の地震が発生したという想定の下行われるもので、当事務所に勤務する全員に「【訓練】地震発生メール」が発信され、各人はメールを受信した後、災害伝言板に現在の安否状況の登録を行います。

訓練により確認された課題もふまえ、災害時に迅速な対応ができるよう引き続き努めてまいります。

■危機対応訓練　「【訓練】地震発生メール」

愛知用水総合管理所

○「佐布里池梅まつり」が開催中です

佐布里池は、愛知県による愛知用水工業用水道第２期事業の一環として昭和３８年９月に着工し、昭和４０年５月に完成した工業用水専用の人工の調整池で、愛知用水の水が供給されています。

調整池の周辺には「佐布里池梅林」と「佐布里　緑と花のふれあい公園」が整備され、梅の木が、２５種約六千本も植えられており、この梅林と公園では２月１０日（土）から３月１０日（日）まで「佐布里池梅まつり」が開催されています。

写真は２月１３日（火）に撮影したものですが、五～六分咲きとのことです。期間中の休日５日間は昼間とはひと味違った幻想的な梅林を楽しむことができる梅林のライトアップも行われます。

公園内の見晴らしの丘には愛知用水神社や愛知用水水利観音があり、調整池周辺には愛知県が運営する愛知用水の歴史や水の働きなどがわかる資料館「水の生活館」もあります。知多の春を感じに是非お出かけください。

■堤体から見た「梅の館」と駐車場

■咲き始めている梅の花

木曽川用水総合管理所

○　令和５年度　下半期交通安全講習会を開催しました

令和５年１２月７日（木）稲沢警察署から講師を招き、交通安全講習会を実施しました。本講習は、木曽川用水に勤務する職員等を対象に、安全運転及び運転に対する責任等の意識を高めるため毎年度２回実施しています。

今回の講習では、主に令和５年度に稲沢市内で発生した死亡事故、重体事故の事例から、事故の原因や運転時の注意点について講義していただきました。

講義を通して、安全確認、夜間運転時のハイビームの重要性、運転に集中する、といった基本的な事を再確認することができました。

これからも安全運転に対する意識をより一層高く持ち、事務所一同安全運転に努めてまいります。

■講習会の様子

○　現場安全パトロールを実施しました

令和４年度に開始した木曽川用水濃尾第二施設改築事業は、現在、機構発注については支線・機場合わせて４件の工事を実施しております。一番最初に発注した「濃尾第二改築大宝支線下流工区工事」は、令和５年８月２３日（水）に安全祈願祭を執り行った後、本格的な工事が始まり、令和６年１月現在は埋設管の更新を行っています。

１月３１日（水）の午後、雨の気配が気になる中、木曽川用水総合管理所において、安全協議会を開催し、工事現場のパトロールを実施しました。

職員、受注者合わせて１７名が現場をパトロールし、その後、安全対策等について意見交換を実施しました。パトロールの結果、現場の安全対策がしっかり行われていることを確認しました。

木曽川用水濃尾第二施設改築事業は令和１８年度まで実施されます。事業が順調に進み、水を通じて濃尾第二地区に更なる恵みをもたらすよう、工事の安全対策に努めて参ります。

■工事案内看板

■意見交換会・現場パトロールの様子

岩屋ダム管理所

○　利水放流設備点検放流を実施しました

２月１４日（水）岩屋ダムでは、中部支社と中部電力（株）の協力のもと利水放流設備の点検放流を実施しました。通常岩屋ダムからの利水供給は、中部電力（株）馬瀬川第一発電所（岩屋ダム併設）からの発電放流により行っています。

今回点検放流を行った利水放流設備は、２機の発電機が共に整備等により使用ができなくなった場合でも、利水者の皆様へ安定して水を供給するために必要な設備です。

実際の使用実績は多くありませんが、この設備が必要になった際には確実に稼働させることができるよう、定期的な点検と動作の確認を行って参ります。

■設備点検の様子

■設備操作の様子

阿木川ダム管理所

○　ダム上流域の小学校への出前講座を開催しました

阿木川ダムでは、地元小学校の要望を事前に聞き取り、職員が直接小学校に出向く出前講座を開催しています。

今回は令和５年１２月１３日（水）と令和６年１月１６日（火）に、ダムの上流にある中津川市立阿木小学校（４年生１６名）と、恵那市立岩邑小学校（４年生３５名）を対象として出前講座の授業を開催しました。

■中津川市立阿木小学校のみなさんと出前授業の様子

授業では、はじめに地球上にある水で、真水として使える水はほんの僅かでありほとんどが海水で飲料等には使用出来ないことを説明し、みなさんの地域にある阿木川ダムからこの大変貴重な水を送り出し、下流域の多くで使われていることを説明しました。

■恵那市立岩邑小学校のみなさんと出前授業の様子

その中で直接ダムの水の恩恵を受けない上流域のみなさんとダムとの関わりについて触れ、川を汚さないことがダム湖の水質保全につながり、その水が阿木川ダムを通じて下流の様々な工場に送られ、やがて飲料製品や自動車などの部品製造に使われて、それらが上流域に戻ってきて豊かな生活に繋がっていることを話しました。

また、阿木川ダムの役割について説明するとともに、ダム湖の水質についてダム湖内で採取した水を顕微鏡で観察してもらい、植物性プランクトンについて調べました。

どちらの小学校の児童とも、このプランクトン観察がとても好評で、自分たちで見つけたプランクトンの形などを喜んで我々に伝えに来てくれました。

阿木川ダムでは、水の大切さを伝えるため、出前講座を今後も継続していきます。

徳山ダム管理所

○　堤体上の道路の一般通行規制開始しました

令和５年１２月４日（月）、徳山ダムの堤体上道路と堤体の境界にある岩同士をつないでいるチェーン（ガードレールの代わり）を、積雪の重みによる破損から守るために外し、安全確保のため毎年通行規制を行っています。

今年は、チェーンの代わりにロープを設置して規制の通路を昨年より少し奥（左岸寄り）に設定し、堤体中央付近まで通行出来るようになりました。

冬期期間中も徳山ダムのダムサイト公園は、午前９時から午後５時まで開放しており、ダムカードは配布していますが、積雪や凍結による事故を防止するために、展望台への立ち入りや堤体部の通行規制外への立入りをご遠慮いただいています。

徳山ダムへ来訪される際は、冬用タイヤを装着するなど冬対策を行い、路面の状況や野生動物との遭遇に十分注意してお越しください。

■岩をつなぐチェーンの代用ロープ

■堤体の通行規制を昨年より奥に設置

○　地元小学生たちが徳山ダム資料棟でイグルー作りを行いました

１月２７日（土）、徳山ダムの下流約５kmにある徳山ダム資料棟（水と森の学習館）で揖斐川町近隣地域の小学生とその保護者合わせて約５０名がイグルー（圧雪ブロック造りの家）を作りました。

イグルーは、北米に住むイヌイットの方たちが冬に移動しながら狩猟を行うための仮の家として作られていたそうです。

水と森の学習館職員による指導のもと、３つのグループに分かれて作業を開始、まずはブロックの形を作るために型のカゴに雪をたくさん詰めて、手足を使って固めていきます。型

から外したら、円形に並べて１周して２周目からは、ブロックとブロックの間に互い違いに積み上げていきます。３～４周目くらいから積み上げる前に下のブロックに内側向きに角度をつけて、徐々に屋根を作るように積みます。

イグルーの中にいる人と外にいる人で協力して、雪のブロックを支えながら積み上げたり、ブロックの隙間を柔らかい雪で埋めたりと大変な作業でしたが「楽しい！」「新しい雪ちょうだい！」など賑やかに作業が進められていき、みんなの力で個性豊かな３つのイグルーが完成しました。

徳山ダム周辺地域は、例年年末から３月にかけて２ｍ以上の雪が降ります。今年は雪が少ないかなと思いましたが、無事にイグルー作りを行うことが出来ました。

お昼休憩の時には、横の広場でそり滑りを楽しむなど雪と触れ合い続ける１日でしたね。
帰るときに、「来年もまた作りたい。」「今度はスノーシュー体験にも参加したい。」など嬉しい言葉が聞けて良かったです。

■イグルー作成中の様子

■完成した３個のイグルー

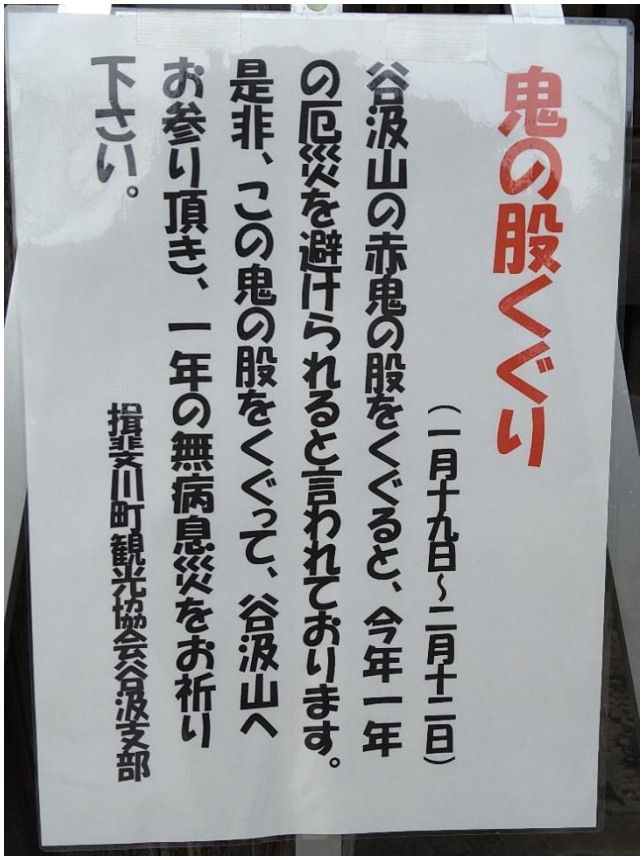
○　谷汲山華厳寺（たにぐみさんけごんじ）　仁王門前に赤鬼像が登場

徳山ダムの地元である揖斐川町谷汲地区に、地域の方々に「谷汲さん」の愛称で親しまれている谷汲山華厳寺（日本遺産に登録されている西国三十三所巡りの最後３３番札所）で２月３日（土）の節分祭に向けて赤鬼像が１月１９日（金）から２月１２日（月）まで設置されました。

毎年節分祭の前後には仁王門前に高さ４ｍの赤鬼像が設置され、赤鬼の股をくぐると今年１年の厄災を避けられると言われていますので、毎年多くの参拝客が身をかがめて通り抜けています。２月３日（土）の節分には、厄除祈願会が執り行われ、無病息災と厄除の願いを込めた豆まきが行われました。

徳山ダムの地元揖斐川町には、自然や文化の他にも季節ごとにワクワクする魅力がたくさんあります。これから少しずつ外出しやすい気候になりますので、お出かけの際には徳山ダムと揖斐川町を候補の一つに入れてみてはいかがでしょうか？

■仁王門前に設置された赤鬼



■鬼の股くぐり説明文

長良川河口堰管理所

○　揖斐川・長良川中堤合同クリーン大作戦に参加しました

長良川河口堰管理所では、２月１５日（木）ＮＰＯ法人木曽三川ごみの会が主催する、揖斐川・長良川中堤合同クリーン大作戦に参加しました。

揖斐川と長良川の間の堤防付近（ＪＲ関西本線から国道１号線の間）を中心に清掃を行い、国土交通省木曽川下流河川事務所、関係業者の方々、当管理所全職員の合計１００名以上が参加し、上下流二手に分かれて行われました。

１時間程度の清掃ではありましたが、河川漂着ゴミから不法投棄ゴミなどかなりの量が見つかり、参加者全員が河川環境の改善を図ろうと率先してゴミを集めました。

■クリーン大作戦に参加された方々

■収集した大量のゴミ

ブレイクタイム　ことわざ

【　涙ほど早く乾くものはない　】

・流れ落ちる涙は、乾きやすいもの。悲しみや苦しみは、いつかきっと癒える時がくる。人は誰でも、立ち直ることができるのです。涙がつたったその顔は、また素敵な笑顔に変わるはず。

味噌川ダム管理所

○　今年も開催！木曽谷狼煙（のろし）あげ

木曽谷（旧中山道でつながる木曽郡内から塩尻市にかけて）の各地域では、毎年年始の時期に新春の風物詩である「木曽谷狼煙あげ」という恒例行事が行われました。

味噌川ダムの地元木祖村においても、昨年と同じく村内藪原地区の木曽川河川敷にある親水公園「水の始発駅公園」にて１月４日（木）に実施し、今年も好天の下無事開催が叶いました。

当管理所職員も参加させていただき、モクモクと立ち昇る白煙をまじまじと眺めながら今年１年の安全を願いました。

■「のろしあげ」の様子

○　味噌川ダムにおける冬の風物詩

味噌川ダムは、２月現在真冬の景色へと変化を遂げています。２月５日（月）夕方頃に降った南岸低気圧による大雪の後は、ダム堤体がゲレンデの様に真っ白な雪におおわれ、管理所のベランダの手すりにもかなりの積雪がありました。

また、味噌川ダム湖（奥木曽湖）を見渡せば、湖面の結氷が１月と比べて少しずつ広がってきており、冬将軍が増々勢いづいている事が分かります。

■堤体に降り積もった雪

■凍ったダム湖（奥木曽湖）

三重用水管理所

○　刈草ロールの配布

三重用水管理所では、行政当局による確認を得た上で、毎年、ダムを管理する上で発生する刈草を無償配布しており、今年度も１３０個の刈草ロールを配布しました。刈草は畑のマルチングや、堆肥の原料等にご活用いただいております。

今年度の申込みは終了しましたが、毎年秋頃に三重用水管理所のホームページで募集しておりますので、ご利用の際はぜひお申し込みください。

■除草中の菰野調整池堤体

■配布時の様子

○　菰野調整池が一面の銀世界

１月２４日（水）から２５日（木）にかけて、日本各地で寒波に伴う大雪が降り、三重用水管理所周辺でも約２０㎝の積雪が観測されました。きらら湖堤体も一面が銀世界となり、普段とは違った美しさでした。町内ではいたるところで雪だるまが作られており、普段雪が積もらないため子供たちにとっては、良い思い出になったでしょう。

■積雪した菰野調整池

■三重用水管理所

編集後記

【担当課：中部支社総務部総務課】

元日に、令和６年能登半島地震が発生しました。お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された地域の方々にお見舞い申し上げます。

巻頭言でも記載がありますが、水資源機構でも日本水道協会からの支援要請を受け、能登半島先端に位置する珠洲市に職員と可搬式浄水装置２セットを派遣し、１月９日から生活用水や飲料用水の提供を行っています。

中部支社では、派遣する職員用として、備蓄している水、非常食や物資を併せて運搬しました。その際に、どのような物資がどこにあるか、探すのに、大変苦慮しました。災害派遣に当たっては迅速さが何より求められるので、総務課として反省したところです。

物資について、一覧表にはまとめていたものの、いざというときにあまり役に立たなかった点を踏まえ、ロッカーなどに写真付きで物資を示して、どこになにがあるか適格に把握できるようにする取り組みを始めたところです。

また、初期段階で派遣された職員によると、一番困ったのはトイレとのことでしたので、防災用の簡易トイレと目隠し用のテントを購入しました。

いつ起きるかわからない災害対応を迅速に行えるよう、物資の見える化を推進していきたいと考えています。

■保管している防災用品の一部

■防災用簡易トイレ

■■

今月の水通信はいかがでしたでしょうか。

「水通信」に対して、ご要望、ご意見等がございましたら、下記アドレスまでご連絡ください。

mailto: chubu_water@water.go.jp

＊＊＊『第１９７号は、４月下旬に発行する予定です。』＊＊＊

バックナンバーをご覧になりたい方はこちら

https://www.water.go.jp/chubu/chubu/mizutsuushin/mizutsuushin.html

■■

☆中部管内事業所のホームページアドレスは、以下のとおりです

中部支社：	https://www.water.go.jp/chubu/chubu/
豊川用水総合事業部：	https://www.water.go.jp/chubu/toyokawa/
木曽川水系連絡導水路建設所：	https://www.water.go.jp/chubu/kisodo/
愛知用水総合管理所：	https://www.water.go.jp/chubu/aityosui/
木曽川用水総合管理所：	https://www.water.go.jp/chubu/kisogawa/
岩屋ダム管理所：	https://www.water.go.jp/chubu/iwaya/
阿木川ダム管理所：	https://www.water.go.jp/chubu/agigawa/
徳山ダム管理所：	https://www.water.go.jp/chubu/tokuyama/
長良川河口堰管理所：	https://www.water.go.jp/chubu/nagara/
味噌川ダム管理所：	https://www.water.go.jp/chubu/misogawa/
三重用水管理所：	https://www.water.go.jp/chubu/mieyosui/

発行者：水資源機構中部支社